

(1) 単元名：ねがいを受けとめて読む

「わすれられないおくりもの」 3年教材

(2) 本時の目標：○ あなぐまの死を悲しむ動物たちの様子を読み取る。

○ 冬の様子と動物たちの悲しい様子を読み取る。

新年度赴任の授業者である。赴任前は大阪府で教職に就き大学の付属小学校での経験があり、本年度より沖縄で教職に就く。当然沖縄県のへき地教育は初めての経験で、ましてや「学びの共同体」の理念による、授業経営も初経験である。

本日の授業公開に至るまでに、同僚の授業を2回見せてもらい、さらに7月に入って、自主研修として神奈川県のある郷小学校の月例研修会に参加し、本日の授業に臨んでいる。

児童は2名であるが、「それぞれの個性の良さを生かし、互いに認め合いながら、考えを深め合える授業を心がけたい。」とのこと、「学び」の授業公開初挑戦である。



7月26日 【校内研修】

7月11日の授業者の授業DVDを視聴して職員でリフレクションする。今回は安波小の校内研修の様子から記していきたい。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

7月26日 安波小学校図書館にて、授業DVD視聴による校内研修。



1週間前の授業者の授業を全職員で振り返り省察する。授業者には事前にDVDを視聴してもらい、全員で視聴後に授業を振り返ってもらった。

初めての授業公開に、大丈夫かな？これでいいのかな？不安を抱きながら一番ドキドキワクワクしていたのは自分であったと振り返る。

安波小では校内研も実にしっとり

である。授業者に敬意が向けられ、同僚たちが子ども達の成長を静かに語り見守っている。

DVD視聴後テキストを使って授業公開の前後を話してもらう。子ども達は去年からこのスタイルで文学の授業を進めている。

授業者は今回が初めてである、「この書き込みは〇〇が話してくれた。」授業者が実に楽しそうに語ってる。授業公開後も、子どもの「気づき」や発想に感心ばかりであったとう。

『授業が楽しい、私がワクワクする。』笑顔で感動的に授業者は語った。うれしいの一言である。



校長先生、教頭先生、同僚が語る。慎ましく謙虚な仲間達だ。授業者が知らない子ども達の成長を語る。語ることで授業者に「安心」が生まれる。同僚の安心する姿にまた「安心」する。

人は「語る」ことによってつながる。「言い合う」のではなく「聴き合う」語りである。実にしっとりした空気と息遣いを感じる。





2:00 前時の振り返りとして(1)～(3)の読みを入れる。

8:30 本時(4)～(5)の読みを指示(2回音読)



安波小の子ども達の読みは素晴らしい。先週の6年生、先月の1・2年生、そして今日の二人の読みも素晴らしい。したためるようにじっくり味わって読んでいる。教師達の共通理解、共通実践の結果である。特に授業終了時の読みは、思わず聴き入ってしまうほどである。

23:00 良人：「ほほをつたう」について語る。…ほっぺたを涙が・・・

24:00 翔太：「途方にくれる」…今はどうしていいかわからない。

27:00 アナグマの死の意味を探る。



「いつもいるはずのアナグマさんがいない。」翔太さんの発言で、動物にたちにとってアナグマの死はどういう意味だったのか？なぜ悲しいのか？二人の対話が交わされる。

翔太：アナグマさんにいろいろ教えてもらっていたから。

二人の発言をつなぐ教師

教師：モグラさんの「やりきれない悲しみ」とは？

30:00 モグラの「やりきれない悲しみ」にこだわる二人。翔太さんと良人さんの会話が深まる。



教師は、二人の対話中発言にうなずきながら「どこから」、「どうして」、「ああ～そうか」などの言葉でつなぐ。教師の、この子達の思

いを知りたい、分かってあげたい姿勢が表情や言葉でいきかう。しっとりした安心して語れる教室の空気を感じる。二人は完全に物語へ入り込む。

- ▲ 発言の確認や思いの解説のための教師のリボイスが多くなっていく。リボイスが多いと「どうせ先生が語り直してくれるから」語ることを早めにあきらめる子になるので、つなぎ言葉はできるだけ端的にしましょう。

39:20 教師から新たなテーマが下ろされる。(事前に準備)

教師:アナグマは死ぬこと分かっていたんだよね。この手がみいつ書いたんだろう？

なぜ「死」という言葉を使わなかったのだろうか？



ぼくはもうすぐ死んでしまいます。でも悲しまないでください。



翔太：アナグマが「死にます」と言うとみんなが悲しむから、悲しまないように「死」という言葉を使わなかった。

良人：「長いトンネル」から旅に出るイメージを語る。トンネルの向こうで待っている。帰ってくる。また会える。悲しませないために。

44:50 最終「読み」・・・素晴らしい音読に圧巻である。

子ども達がどれほど文学を味わっているか？音読による「読み」がすべてを語る。思考の深まりや感心度は数値で測れない。子どもの「読み」と「対話」と「表情」から見取ってほしい。

【同僚の関わり】

みんなで見てあげるが鉄則である。校長先生が静かに子ども達の「書き込み」の様子をうかがう。



【授業者に脱帽・・・】

子どもと一緒に書き込みする授業者。教室には二人しかいない。教師は、指導者であり、大人であり3番目の仲間でもある。「学び」はすべての人が対象とする



【寄り添う】

適当なメンタル距離を保ちながら寄り添う。一番大切な「安心」を獲得する。



▲【テーマをあずける】

教師に向けて語るだけでなく。テーマや課題を二人におろして、互いに向き合って語らせるも大切です。

言い合いでなく、決め事でもなく、あくまでもお互いの考えのすり合わせの場として設定する。